

リーディングスキルテストの視点に基づく授業改善4

～研究校の実践に基づいた授業メソッド～

- ①係り受け解析：文の構造を正しく把握する。（主語・述語や修飾語・被修飾語など）
- ②照応解決：代名詞が何を指しているかを正しく認識する。（「これ」「それ」「その～」など）
- ③同義文判定：与えられた二文が同義かどうか正しく判定する。
- ④推論：既存の知識と新しく得られた知識から論理的に判断する。
- ⑤イメージ同定：文と非言語情報（図・グラフなど）を正しく対応づける。
- ⑥具体例同定：辞書の定義を用いて、新しい語彙とその用法を獲得したり、
理数的な定義を理解し、その用法を獲得したりする。

左記のRSTの6つの視点を基に児童生徒のつまずきを防ぎ、児童生徒自身が教科書を正しく読み、判断できるように、授業改善を行うことが重要である。

I 子供たちのつまずきを防ぐための教材研究

□ 教科書を読み、本単元や本時の授業でおさえる言葉を確認し、授業プランを検討する。

下記の教材研究シートや研究校の取組を参照

教材研究シート



研究校の取組1
授業の基本構成



研究校の取組2
教科別発問集

〈国語〉



〈社会〉



〈算数〉



〈理科〉



◆教材研究を生かす工夫例



必要に応じて定義や言葉の意味等を確認できるように資料やヒントカードを作成する。



実物を扱ったり、実際に動作化させてみたりすることで理解を深める。



文章を絵や図、グラフ、表などにして提示したり、自分の考えを図やグラフ、表なども用いて表現させたりする。

II 子供たちの学びを支援するための授業展開

◆課題やめあて、学習内容の明確化

□ 本単元や本時の授業の課題やめあてを丁寧に確認し、児童生徒自身に学習活動を理解させる。

〈課題やめあての確認の活動例〉

- ・課題やめあてを教師と一緒に書いたり（共書き）、視写させたりしてから、音読する。
- ・既習事項で今回の学習に使えるものはないか、どんなことを学習すればよいかを児童生徒が考えるようにする。



◆発問の工夫

□ 児童生徒の理解が曖昧な点について繰り返し発問を行う。

〈繰り返し発問を行う場面の例〉

- ①児童生徒の発言が抽象的なとき→「～ってどういうことですか。他にはどんなもの(例)がありますか。」
- ②理由や根拠があいまいなとき→「どうしてそう思ったのですか。」「教科書のどこに書いてありますか。」
- ③児童生徒の考えを深めたいとき→「～と～は同じでしょうか。」「～の場合はどうですか。(反例を示す)」



◆まとめ・振り返りの充実

- 本単元や本時の授業で学んだ用語や知識を使って、文章を書いたり、問題を解いたりする場面を設ける。
- 本単元や本時の授業の振り返りをさせ、子供たちに学習内容を言語化させる。

〈振り返りの例〉

- ①今日の授業で「分かったこと」「分からなかったこと」を書いてみよう。
- ②次回の学習をする自分にアドバイスをメッセージにして残そう。
- ③もっと知りたい点や学習したいことを考えてみよう。



III 子供たちの学習状況を確認するための授業分析

□ 振り返りやテストの結果等から児童生徒が正しく学習用語や定義等を理解しているかを確認する。



I 分析を生かして、次回の教材研究を行うことで、着実な授業改善につながる。